

## 研修報告書 No.18

研修先： 大井田病院、渭南病院、沖の島へき地診療所

私は平成 31 年 2 月に大井田病院、渭南病院、沖の島へき地診療所において、地域医療研修をさせていただきました。地域医療研修先として高知県を希望したのは、離島の診療所研修など普段の研修病院とは異なる「地域」医療を経験したいと思ったからです。研修を通じて地域を担う病院や医師の在り方を学び、自分の医師としての在り方を再考する機会となりました。

最初に研修させていただいた大井田病院は車で 15 分ほどの場所に県立の急性期病院があるため、急性期病院からの受け入れや、自宅・施設で過ごしている方の緊急時の受け入れを行っている病院でした。外来や内視鏡検査などを勉強させていただき、他にも訪問診療や訪問看護、地域包括支援センター、乳児検診などに同行させていただきました。自分の研修している急性期病院では経験したことがない、地域の中での医療を実際に経験することができました。また介護保険サービスについても教えていただきました。退院後の生活において医療と介護の連携は不可欠であり、今までの自分の不勉強を痛感いたしました。

沖の島へき地診療所では、1泊2日で念願の離島研修をさせていただきました。常勤の医師は配置されておらず、週に2日ほど県内から医師が派遣されており、医師不在時に救急対応が必要となった際にはテレビ電話で医師が診察できるシステムになっているそうです。遠隔診療は身近ではありませんでしたが、常勤医師がいない地域を実際に見ることで遠隔診療の重要性を実感いたしました。

次の研修先となった渭南病院は大井田病院と異なり、近隣に急性期病院がないため急性期から慢性期、訪問診療まですべてを担っている地域の中核病院でした。私立病院ですが、病院にとっての収益だけを考えるのではなく、地域で必要とされる医療を提供する病院の在り方は、医療者としてのあるべき姿勢を見せていただいたと感じました。高知県は高齢化が進んでおり、その分医療や介護における仕組みづくりが進んでいます。高齢化の進んだ地域において在宅医療は非常に重要で、大井田病院では多職種で連携して退院支援事業に取り組んでいるそうです。入院早期から退院を見据えた支援体制をとり、地域との情報共有の場を設けて病院と地域が連携し、その結果として在宅復帰率 90%を達成していると伺いました。また、私が非常に感銘を受けたのは ICT を利用した情報共有システムで、関係機関の間でのカルテの共有が可能となっているほか、施設職員や訪問看護師とも情報が共有できるようになっています。多機関・多職種での効率的な情報共有と円滑なコミュニケーションに寄与している仕組みであると感じました。

また、今回の実習では「総合診療」についても学びました。いわゆる内科的な総合診療ではなく、外科から内科まで幅広く地域の人々に必要とされる知識と手技を身に付け診療に

あたることです。私の所属している研修病院はマイナー科もすべてそろっており、自分の専門外の分野でもすぐに専門医に相談することができる環境です。しかし、地域を担う病院では自分の専門しか診ないというわけにはいきません。来年度から内科専攻医になるうえで、まずは自分の専門分野について研鑽しなくてはなりません。先生方の姿を見て専門分野以外についても勉強を続け成長したいと感じました。

お世話になった先生方は、地域医療のことを熱心に考え働いている先生ばかりで、医師としての姿勢を学ばせていただきました。院内の医療スタッフの方にも大変お世話になりましたし、院内だけでなく保健所や地域包括支援センターの方など、多くの方々にお世話になりました。高知県で働いているわけではない、県外から地域研修に来た研修医に、時間をとってご教授くださり心から感謝申し上げます。この1か月間学ばせていただいたことを糧に今後も精進してまいります。